

保育計画成果報告書

法人名等	生活クラブ生活協同組合
施設名	生活クラブ保育園ぽむ
報告者（役職）	浮田 理香（園長）
住所・連絡先	〒202-0011 東京都西東京市泉町3-12-25 パスレル保谷1階
	☎ 042-425-0078
	E-mail seikatsu-club.hoikuen-pom@nifty.com

○タイトル（保育計画）

子ども一人ひとりが好きな遊びをたっぷりと

○主な助成備品

どこでもベンチ 洗える畳 軽量折式ストレッチマット 抗菌砂チャイルドサンド
砂場道具 カタカタ人形 ミニバス（散歩車） 等

1. 保育計画策定の目的

当園は2007年に無認可保育園としてスタートし、東京都認証保育所を経て2019年4月より小規模保育事業所になりました。ワンルームで園庭の無い環境ではありますが、毎日近所の公園に散歩に行ったり、室内でも色々な遊びを工夫したりしながら保育をしています。子どもたちの健やかな成長や発達には『遊び』が重要ととらえ、戸外でも室内でも体を十分に動かし、遊びが広がり、また子ども一人ひとりが好きな遊びを楽しみ満足できるような保育環境をさらに整えていきたいと考え保育計画を策定しました。

2. 具体的な実施内容

<散歩車>



毎日、散歩車に乗って午前は少し離れたところにある自然がたっぷり残った公園へ行くことができました。走り回ったり、虫を探したり、葉っぱに触ったり、穴を掘ったり自然に触れながら思い思いの遊びを楽しみました。午後も散歩車に乗って保育士と会話をしながら近所へ出かけ、外気浴や車を見たり電車を見たり、お散歩を楽しみました。

<砂場の砂、スコップ、バケツ>



少なくなってきた砂場の砂を補充することができ、快適に砂遊びをすることができました。夏は水を流してどろんこ遊び。サラサラの砂やどろんこの感触を楽しむこともできました。スコップやバケツもたくさん用意することができたので、取り合いにならず遊びを楽しむことができました。

<ベビーベンチ、どこでもベンチ>



0歳児クラスでは、座って絵本を読んでもらったり、水を飲んだり、ズボンを穿いたりする場所として使いました。

1・2歳児クラスではベンチで囲ってボールプールコーナーにしたり、並べたベンチの上を渡ったり、ジャンプしたりして遊びました。

<畳、マット>



クッションの上にマットを重ねたり、ベンチと組み合わせてアスレチックコーナーを作るなどして、室内でもたっぷり体を動かして遊びました。畳を敷いてままごとコーナーを作って遊びました。ままごとが楽しくなるような手作りの小物（エプロンや帽子、道具など）も工夫し、遊びが広がるようにしました。

<カタカタ人形・ことことスロープ>

保育時間の長い子どもが多いので、夕方の時間は気分を変えて机上遊びを楽しみました。質の良い木製の玩具で、ゆったりと保護者のお迎えが来るまでの時間を過ごすことができました。



3. その成果と評価

<戸外遊び>

毎日公園にお散歩に行き、草の上を歩いたり走ったりすることで歩行が安定しました。虫や葉っぱなど自然に触れて遊ぶことや砂場の砂で遊ぶことで、豊かな感性が育てられていると感じます。また、外気に触れたっぷり遊び、お腹がすき、お昼ご飯をたっぷり食べぐっすり午睡…と生活のリズムを作るのにも役立ち、子どもたちの健やかな成長にもつながっています。

<室内遊び>

『ワンルームで年齢ごとに仕切られた空間をいかに使うか』ということが長年の課題でした。広くはないので常設のコーナーを設置することができない、また収納も少ないため、子どもたちの興味に合わせて、今あるもの（備品）を色々な形で活用する必要があります。今回、持ち運びができるベンチやマットなどの備品が充実したので、いろいろな使い方のアイデアが生まれ実践することができました。

- ベンチを置く場所を決めて、毎日そこで絵本を読んだり水を飲んだり着替えをしたりすることにより、0歳児の子どもたちも部屋での過ごし方が分かり、落ち着いて生活することができました。ベンチに座ってホッとする場所としてもうまく使うことがで

きました。

- 1歳児クラスではベンチや畳を組み合わせてままごとコーナーを作り、ごっこ遊びを楽しむことにより想像力が広がりました。またベンチで空間を仕切るだけでも「自分だけの場所」ができ、一人遊びに集中することにより満足して気持ちの安定に繋がりました。2歳児クラスではごっこ遊びが充実し、会話も広がり、保育士が見守っているだけで友達同士で楽しく遊べるようになりました。
- マットやベンチを組み合わせてアスレチックコーナーを作ることにより、室内でも体をたっぷり動かして遊び、たくましい体作りができました。2歳児クラスでは子どもたち自身がどんな並べ方をするか？を保育士と相談し、好きなように設定したりもしました。
- 木製の玩具を使用し、動の遊びの後は静の遊び、とメリハリをつけて遊ぶことができました。手先を使った机上遊びをすることにより、手先の発達を促すことができたと思います。楽しくて長い時間椅子に座って遊んでいる子もいました。

<職員のスキルアップと子どもたちの変容>

ここ数年、園では『子ども一人ひとりを大切にする保育』を方針に掲げ、環境設定や遊びを工夫することに取り組んできました。その間に助成金をいただき備品を充実させることができたことで、さらにそれを進めることができました。この取り組みをする中で、保育者たちは子どもたちの発達や興味を観察する目が育ち、それにあった遊びを考え提供できるようになり、スキルアップにつながりました。

また大人が遊びを決めるのではなく、「子どもたちが好きな遊びを選べる」ということも大切にしています。保育士が色々な遊びを工夫・用意することができるようになったことで、子どもたちの選択肢も増えたのではないかと考えます。好きな遊びをたっぷりすることで子どもたちも満足し、保育士と子どもとの信頼関係もでき、保護者からも「園に行くのを楽しみにしている」と言ってくれ、それが嬉しかったです。

4. 今後の課題と展望

年度が替わると子どもの様子も違うし、まだまだ環境設定には工夫の余地があります。引き続き部屋の使い方や、子どもたちの発達や興味にあった遊びを研究していきたいと思っています。また、遊びには事故防止が付き物です。怪我無く安全に過ごせるよう安全面も並行して考えながら保育をしていきたいと思っています。

今後も子どもたち自身が遊びを見つけ、様々な発見をし、生き生きと活動できるような保育園を目指していきたいと思っています。

以上